

春期審査会を終えて

道場は張り詰めた空位の中、粛々と諸先輩の演武が繰り広げられ緊張感は最高潮に達した。

過去、他武道を含め幾度となく経験してきたこの緊張感が私は好きだ。

思えば、一年前錬心館の門を叩いた時に、先生から「居合の経験があれば有るほど柳生新影流を学ぶのは難しい」と言われた通り何度も壁にぶつかり奮起と挫折の繰り返しであった。それでも何とか、先生の激励と指導のお陰でこの場に立つことができた。しかし、実際その場に立つと、西国柳生新影流を継承する両先生と審査員の目は厳しく、思わず押しつぶされそうになる。

無心になれと己に言い聞かせるもこれを裏切るかのように、邪心や指導を受けた諸注意が頭を駆け巡り心は乱れた。

「普段通り伸び伸びやれば良い。」

ふと先生の言葉を思い出し、平常心で指定の業の演武を開始することができた。

緊張感の中、仮想の敵を想定しながら一本一本着実に演武をやり終えた。

反省点は多々有ったが、自分なりには力を出し切ったと思えた。

入門の折に西国柳生新影流の昇段審査は厳しいと話は聞いていたが、審査を受けた方々の合否結果を見て納得せざるを得なかった。

本物の西国柳生新影流を継承してもらいたいと願う先生の思いを目の当たりにし、求めていた武道に出会った気がした。

今回は、先生方の熱心な指導のお陰で、2級に昇級することができたこと改めて感謝いたします。

今後も、「稽古量は嘘をつかない」の言葉を信じ、西国柳生新影流の業を少しでも会得するために更に限界に挑戦していく所存です